

# 調査報告書

## グループホームの外部評価項目

### (調査項目の構成)

#### I. 運営理念

1. 運営理念の明確化
2. 運営理念の啓発

#### II. 生活空間づくり

1. 家庭的な生活空間づくり
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり

#### III. ケアサービス

1. ケアマネジメント
2. ホーム内でのくらしの支援
  - (1) 介護の基本の実行
  - (2) 日常生活行為の支援
    - 1) 食事
    - 2) 排泄
    - 3) 入浴
    - 4) 整容
    - 5) 睡眠・休息
  - (3) 生活支援
  - (4) ホーム内生活拡充支援
  - (5) 医療機関の受診等の支援
  - (6) 心身の機能回復に向けた支援
  - (7) 入居者同士の交流支援
  - (8) 健康管理
3. 入居者の地域での生活の支援
4. 入居者と家族との交流支援

#### IV. 運営体制

1. 事業の統合性
2. 職員の確保・育成
3. 入居時及び退居時の対応方針
4. 衛生・安全管理
5. 情報の開示・提供
6. 相談・苦情への対応
7. ホームと家族との交流
8. ホームと地域との交流

訪問調査日 平成17年9月6日  
調査実施の時間 開始10時30分 ~ 終了16時00分

訪問先ホーム名 しいえす常盤平  
県 千葉県松戸市常盤平3丁目13番地の2

主任評価調査員  
(記入者)氏名 柳田祥子

同行調査員氏名 久保柴の

#### グループホーム側対応者

職名 法人代表者 成富 一郎

氏名 管理者 相良やよい

ヒヤリングをした職員数 2人

#### ※記入方法

- 調査の結果を調査員同士が話し合い、主任調査員がご記入ください。
- 「できている」「要改善」「判断不能」の欄のいずれかに○を付けて下さい。
- その判断した理由や根拠を記入して下さい。  
要改善、判断不能の場合の根拠、理由は必ずお書き下さい
- 要改善とした場合、改善すべき点等の特記事項があれば記入して下さい。

#### ※項目番号について

- 評価項目は71項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

#### ※用語について

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

# 1. 調査報告書

主任調査員氏名 柳田祥子 / 同行調査員氏名 久保柴の

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	<b>I 運営理念</b> 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、痴呆性高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			難しい言葉や表現でなく、日常会話や業務指導の中で伝えている。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。		○		難しい言葉をこれ見よがしに掲示することを好まないという経営者の方針だが、運営理念の明示をすることは理解を得る最良の方法ではないだろうか。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			箇条書きに判りやすく明示されている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)		○		経営や組織体制がようやく安定してきたので、今後の課題として取り組む体制を整えつつある。	
	<b>運営理念 4項目中 計</b>	2	2	0		
	<b>II 生活空間づくり</b> 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)		○		駐車場が玄関の直前に配置されているため、玄関の出入りに抵抗感があるが、管理者はこれを認識しており、近日中の改善を検討中である。	
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。		○		部屋の配置や建物の内装はどうしても家庭的とはいえない。ドアの表示、目印を木製の手造り品で飾るなど、家庭的な雰囲気を出すよう、経営側も職員も、日常的に工夫をしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			階段の昇降口や廊下の壁沿いにソファーがおりてあり、入居者が自由にくつろげるように考えられていた。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			各自、なじみの家具や持ち物を持ち込んでおり、入り口にはお気に入りの暖簾を飾りつけている方も居られた。	
<b>家庭的な生活環境づくり 4項目中 計</b>			2	2	0		
<b>2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり</b>							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			手摺り、段差解消のためのスロープがところどころ設置されていた。またトイレは健常者用、車椅子対応用も区別して設置されていた。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			部屋のドアには手作りの飾り付けがしてあり、各自部屋識別できるよう工夫されていた。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)		○		テレビ、カラオケなどを楽しんでいたが、リビング全体に響き渡り、全員が楽しめるようになっているが、楽しみたくない入居者への配慮が必要ではないか。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。		○		冷房は高齢者向けに弱冷房にしていたが、トイレ臭気への配慮が必要と思われた。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			文字が大きく、シンプルな掛け時計がリビングの壁中央にあり、見やすかった。カレンダーも文字が大きくシンプルなものが使用されていた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			枝切バサミを入居者が自由に使用しており、各人が好みにより、自由に道具を使えるようにしてある。	

心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計	4	2	0		
--------------------------	---	---	---	--	--

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>Ⅲ ケアサービス</b> 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			全国グループホーム協会のフォーマットに従って記入し、家族からの情報も記録に残し、生活歴や特性などを具体的に考慮して作成されていた。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			すべての職員が内容を知っており、気づきがあるたびに、行間に細かな書き込みがされていた。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			家族に直接書いてもらうなどして、家族の意見を取り入れる工夫がされていた。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			入居者の状態に合わせて適宜介護計画の見直しがされていた。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個別の記録に毎日、時間ごとに様子が書き込まれており、その事実に従って介護計画の作成や変更がなされている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			ホーム独自の申し送り様式があり、確実に情報伝達が行われるようにしてある。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			適切なケースカンファレンスと共に、臨時にミニカンファレンスを行い、職員間で課題の解決を図っている。	
<b>ケアマネジメント 7項目中 計</b>			7	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は入居者に対し、それぞれの対応の仕方をし、各人の尊厳を大切にしていた。来客の荷物がソファの端においてあったが、そこに入居者が腰を下ろすといったとき、職員はさりげなく来客の荷物をどけるようにしている。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気を感じている。	○			職員自身も入居者にあわせて編み物などをし、ゆったりとした雰囲気が感じられた。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			アセスメントの中に、生活歴や、過去の経験などについて家族自身に記入してもらい、確かな事実を元に、その人らしい暮らし方を把握し、ケアに活かしている。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			さりげない見守りの支援がされている。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			感情の表出法として絵画の専門家を招き、定期的なレッスンの場が設けられている。	
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			介護計画もIFCの方式に従って、出来ること、出来そうなことの視点から目標を定めてあり、各人に合わせて介護計画に従ってケアを行っている。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束を行わないことについては、契約書にも明記してあった。但し生命にかかわる緊急の場合には除くとしてある。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			かつて入居者がホームから出て行かれた経験があり、玄関は暗誦式となっているが、近日中にロックを廃止し、出入りを自由にするという。しかし駅に近い立地条件であり《鍵を掛けない工夫》には臨機応変な判断が必要では、と考える。いまや多世代でなくても《自宅》に鍵は必要な世相である。	

介護の基本の実行 8項目中 計	8	0	0		
-----------------	---	---	---	--	--

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものにしてている。	○			食器は陶器で家庭的なものを使用している。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としてつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。		○		入居者の食事時間に調査員が立ち会えず、入居者の状態に合わせる工夫については確認できていない。しかし献立は非常にシンプルで、盛り付け・味付けなどには、工夫が欲しいと感じた。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			栄養摂取状態や残食について記録をとり、職員一人一人が把握するようにしている。入居者の状態について、医師、栄養士(職員)の指導に従って対応するようにしている。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も入居者と同じテーブルで食事を摂りながら、さりげなく目配りをし、食べこぼしや偏食をしないようにしている。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできるだけ使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			なるべくトイレ誘導をし、オムツを外すようにするために、適宜声掛けをしている。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄時の声掛けはなるべく小声で話しかけるよう心がけている。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			朝風呂に入る人、夕方に入る人も居る。その人の希望に沿った入浴が出来るよう、配慮している。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			繁華街に面した住宅地に位置しているので、希望にあわせていつでも理美容院へ行っている。	



項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にささりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			食事の食べこぼしで汚れた衣服の着替えのため、そつと居室に同行し、着替えさせてリビングに戻るなど、さりげない支援をしている。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			安眠できるよう、昼間は外出したり、体を動かす工夫をして居る。	
<b>日常生活行為の支援 10項目中 計</b>			9	1	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			日用品などの購入に関してはホームで管理している。入居者の希望に応じた支援をしている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			庭いじり、おやつ作り、カラオケなど、その方の得意分野を見出し、自信を持ってかわりが出て来るよう支援している。	
<b>生活支援 2項目中 計</b>			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			認知症に理解がある協力医師とは、常に連絡を取り合い、緊急時に備えている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			入院後も入院先の担当医やケースワーカーと連絡を取り合い、退院後の受け入れ態勢が万全になるよう努力している。退院のためのホームの待機期間が長く取られており、家族の安心を支えている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			協力医療機関との約束として、最低年1~2回は健康診断を行っている。また、月に最低2回は往診し、健康管理をするようにしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 痴呆の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			残存能力の発見により、機能低下を防ぐ支援をしている。普段の生活でも筋力低下を意識した支援を続けている。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			早めに職員が気づくよう、またその解消に努めている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			食後・就寝前と就寝中の義歯の衛生管理はきちんと支援している。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			医師の指示に従って服薬管理を行っており、その結果については常にフィードバックしながら量の微調整などの指示を仰ぎ、適切な対処をしている。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			全職員が対処できるよう、技術と知識の習得のため、研修会を定期・随時に行っている。	
50	86	○感染症対策	○			医師との密接な連絡があり、予防や対応については職員に周知させている。	
<b>医療・健康支援 9項目中 計</b>			8	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>3. 入居者の地域での生活の支援</b>					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			天気の良い日は必ず一日に最低一回は外出の機会を作っている。	
<b>地域生活 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>4. 入居者と家族との交流支援</b>					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ホームの目的から、外来者を接待する場所の余裕は無いが、食堂や自分の部屋などを利用し、お茶を飲んだり団欒が自由出来る雰囲気が作られている。	
<b>家族との交流支援 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>IV 運営体制</b> 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			代表者と管理者は考えをひとつにし、質の向上のために研修会や講演会などを開催するなどの方法に取り組んでいる。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			最終決定は法人代表者や管理者が行うが、決定に至るまでの過程で情報のフィードバックに努めている。	
		<b>2. 職員の確保・育成</b>					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			生活の流れで多忙と思われる時間帯で手落ちにならないよう、ローテーションに工夫を凝らしている。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			職員がグループホームでの業務に戸惑いや、支障のないよう、専門性を身につけるよう研修には力を入れている、	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)		○		職員たちはグループホーム内で職務の責任を感じ情熱に燃えており、自分たちはストレスを感じていないというが、長期的に見てストレス解消策を講じなければならない。	職員と管理者の関係上、ストレス解消策を提示できないで転身する場合もある。休憩室の整備が必要である。

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			プライバシーや家族の心情も考慮し、経営者・管理者クラスが最初の面接を行い、ユニット長に結果を告げて、実質的なケアが開始される。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			利用者の移動の混乱を避けるため、最善を尽している。	
		<b>4. 衛生・安全管理</b>					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)		○		ホーム用の建物ではないが、車椅子での移動に支障がないよう、細やかな改造がなされている。しかし清掃がいまいちの感じで、特にトイレの清掃に違和感がある。また便座被覆による清掃と消毒不能が気になる。	多数の人が利用するトイレは、清潔に管理されたい。清掃と消毒が出来るよう、便座の被覆取り外しを検討されたい。
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			独立した厨房に調理職員がおり、清潔に管理されている。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			介護の経験と危機管理へのカンが鋭い管理者により、危ないところを救われている利用者も居られるとのこと。この無形の財産をマニュアル化し、全職員が自らのスキルとして吸収できるよう、切望する。	
<b>内部の運営体制 10項目中 計</b>			8	2	0		
		<b>5. 情報の開示・提供</b>					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。		○		積極的に提示できるよう、目下、管理機能を整備中である。	
		<b>6. 相談・苦情への対応</b>					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			日常的に窓口を置き、即対応できる体制をとっている。	

		情報・相談・苦情 2項目中 計						
項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項	
外部	自己							
		7. ホームと家族との交流						
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族との意思の疎通は図られている。家族からの反応が良い。		
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○			家族からも入居以来の《よき変化を喜ぶ》意見が寄せられている。医療機関から見放された利用者が元気になる場合など、全職員も共に喜ぶ。		
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的なその出納を明らかにしている。	○			原則的に管理して頂かないが、ケース・個性を尊重し、全職員で対応を考え、入居者個々に合う支援をしている。		
		ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0	
		8. ホームと地域との交流						
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			協力の他に、設立当初から市の担当部署とは意思の疎通を図ってきている。		
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			入居者の状況でそのつど判断して対応している。		
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			官庁・出先等との連携をとっている。		
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(痴呆の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			事業所開設の際の近隣からの拒否は、緩和されている。社会資源としても必要不可欠の事業所として、堅実な維持をする責務を感じている。		
		ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0	

- ※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。

## 2. 調査報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
ホーム建物は改装型である。最近のホーム専用建物とは違う感じがする。利用者の動き、風呂場と脱衣場の使いやすさ、職員の労働動線など、配置の工夫は感じられるが、まだ改良を計画中である。これらのハード部分と対照的なのが、職員のやる気と自信である。迷いつつ、悩みつつ、懸命に頑張っている現場である。スキルアップに熱心な経営者だが、福祉現場での、スキルと介護への情熱が必ずしも一致しない現状に難渋している。本当に忙しすぎる職場の雰囲気を感じられるが、利用者の安定した状態、支える職員の汗いっぱいの顔が、非常に明るい。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I 運営理念	福祉、介護に関する熱意は、形式を整えるいとまが無い、とにかく利用者のケア最優先!、という経営側の考えが、モロに出ている玄関である。運営方針は、日々のミーティングで共有化を図っている。職員間での意見の違いを常に業務日誌などで調整させている。理念を日常的に生かす努力がなされている。
II 生活空間づくり	建物自体は改装型だが、エレベーターの設置・リビングのアイデア・入居者への安全対策など、さまざまな工夫がなされている。リビングでのんびり過ごしておられる利用者がたは、そこ此処に置かれたソファやコーナーを自然に使いこなしておられる。麗々しくないが、普通の家の雰囲気である。
III ケアサービス	介護計画造りには細かく職員の意見の集約をしている。管理型の福祉現場経験が長い管理者は、グループホームでなければ不可能なケアを身をもって実践している。また全ての職員のスキルアップと申し送りの手法などに非常に神経を使っている。
IV 運営体制	高齢者福祉への理想郷をめざす経営側と現実の職員定員枠は、経営者・職員共々の金属疲労を招く。にも拘らず、記録の文章化に不慣れな現場職員の介護技術と熱意には、事務処理には不慣れだが、介護の《本物》を感じる。子どもの非行にカウンセリングよりも抱きしめが必要なように、粗暴な高齢者からの悩みにも、母性で応える事業所側の姿勢が効果を上げている。しかし崇高な事業理念を支えるのは職員である。職員の労働環境の改善が望まれる。研修にも熱心な経営者のご努力に期待したい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	2	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	2	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	4	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	7	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	8	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	9	
⑦ 生活支援	2項目	2	
⑧ 医療・健康支援	9項目	8	
⑨ 地域生活	1項目	1	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	8	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	1	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	4	